鯉城

第70号

題字は塩田宏司（洲鵬）氏

広島市中区国泰寺町1丁目2番49号
〒730-0042　広島国泰寺高等学校内
鯉城同窓会
電話(082)241-9777　FAX(082)248-7341
E-mail　rijo@orion.ocn.ne.jp
URL　http://www.rijo.gr.jp

平和祈念館が来年、企画展

「一中一年生父母の手記集」もとに

被爆資料や映像作品

広島市の平和記念公園の一角にある国立広島原爆死没者追悼平和祈念館で、来年1月から12月にかけて、企画展「星は見ている―全滅した広島一中一年生父母の手記集」が開催される。昭和29年に発刊された手記集「星は見ている」をもとに、関連資料類や映像作品を展示、上映する。

来年の企画展に向け、資料をチェックする平和祈念館スタッフの岩崎さん（左）と館長の叶さん

展示されるのは、「星は見ている」に収録された手記のうち、遺族からの了解を得られた20編余り。それを日本語（原文）、同（子ども用）、英語、中国語、韓国・朝鮮語の各バージョン別に展示解説装置を活用して紹介する。このほか、被爆資料、写真、原爆投下直後の状況を描いた絵、関連図書の展示もある。

特に力を入れたのが、手記のうち7編をピックアップし、印象的なシーンを写真や絵画をまじえて、20分程度の長さにまとめた映像作品の制作。それぞれナレーションも入り、訪れた人たちが当時の状況を立体的に把握できるよう工夫されている。

昭和20年4月、一中に入学した一年生は320人だった。被爆当日、建物疎開作業のため登校した一年生は、体調不良などのため欠席した13人を除く307人。このうち半数が学校近くの作業現場に行き、残りの半数が校舎内で待機していた。

原爆投下により、疎開作業班は全員死亡。待機組の生徒は火傷をしたり、倒壊した建物の下敷きになるなどして死傷したが、約80人がどうにか脱出した。しかし、翌年4月までに復学できた生徒は19人にすぎなかった。この時点での一年生の死者は288人。被爆死した教職員、生徒のうち、一年生の犠牲者が圧倒的に多かった。

被爆の翌年、遺族会が結成され、昭和29年に父母らが執筆した追悼記「追憶」、さらには「星は見ている」が発刊された。

平和祈念館ではオープン以来、被爆体験記を中心に毎年、企画展を開いてきた。現在同館の館長を務めているのは、鯉城同窓会メンバー叶真幹さん（昭和48年卒）。「星は見ている」を読んだ叶さんが来年の企画展のテーマとして提案し、同館のスタッフ岩崎芳枝さんが中心になって、遺族会との連絡や資料集めに奔走した。

叶さんは「母校にゆかりの『星は見ている』を読んで感動しました。被爆死した生徒の親御さんの思いが、多くの人たちに伝われば…」。一中遺族会会長の秋田正洋さんは「遺族のほとんどは、親からその子供や孫の世代に移っている。関連資料をみてもらうことで、遺族の思いを新しい世代に継承していきたい」と話している。

がんの手術断念 体験伝承に全力

一中一年だった 児玉光雄さん

児玉光雄さん

広島一中一年の時に被爆し、その影響でこれまでに19回のがん手術を受けてきた児玉光雄さん（85）が、被爆体験の伝承に長年貢献してきたとして、今年の鯉城同窓会総会で会長顕彰（特別表彰）を受けた。

児玉さんの被爆体験は、著書やマスコミ報道、体験の伝承活動を通じて繰り返し伝えられてきたが、あらためて振り返っておきたい。

前ページの記事にあるように被爆当日、建物疎開作業のため登校した一年生は307人。このうち半数が学校近くの作業現場に行き、残りの半数が校舎内で待機していた。

原爆投下により、疎開作業班は全員死亡。待機組も火傷をしたり、倒壊した建物の下敷きになるなどして死傷した。翌年4月までに復学できた生徒は19人にすぎなかった。

倒壊した校舎からかろうじて抜け出した児玉さん。目にしたのは、助けを求めるうめき声や、材木の下敷きになり圧死した友の姿…。大きな材木にはさまれた友人を助け出そうとしたが、てこにする棒を探してきて、材木を持ち上げようとしたがびくともしない。

いつの間にか、校舎は燃え始め、火の手が迫ってきた。折り重なった残骸の底の方から「天皇陛下万歳」「お母さん」「広島一中万歳」などの重苦しい声が聞こえてきた。そして最後は複数の声が重なって、校歌「鯉城の夕」の合唱になった。

「鯉城の夕（ゆうべ）　雨白く　花爛漫（はならんまん）の色褪（あ）せて…」。

火はさらに迫ってくる。児玉さんは声の方に合掌し、「こらえてくれ」と叫びながら、その場を去らざるをえなかった。生涯消えることのない悔恨の情と無力感。「講演などであの時の状況を話す時、鯉城の夕の歌詞に触れると声が詰まるので、あえてそこは飛ばしたりするんです」

あの日被爆して復学した19人のうち、現在生き残っているのは児玉さんと下迫次郎さんの2人だけ。児玉さんはこれまでに直腸がん、胃がん、甲状腺がん、皮膚がんなどの手術を繰り返してきた。いずれも被爆の後遺症である。今年9月には通算20回目となる腎臓がんの手術を受ける予定だった。しかし、血液の血小板の数が極端に減少していることもあって、医師と相談のうえで手術は断念した。

残された命をどう生きるか―。児玉さんはこれまでの活動の集大成とも言うべき著書の発行に向けて、親交のあるジャーナリストの協力のもと、このほど作業をスタートさせた。「あと何年生きられるか分かりませんが、放射線がいかに人間の体を痛めつけるか、これからも生き証人として訴え続けるつもりです」。

叙勲・特別表彰など総会で顕彰

平成29年度、各種の賞を受賞された同窓生の方々と団体を、11月18日の総会で顕彰した。（敬称略、卒業年順）

〈叙勲・褒章〉（平成29年春）

▽藍綬褒章（新規産業功績）
昭和34年＝貞末良雄

▽瑞宝小綬章（防衛功労）
昭和38年＝平岩善政

▽瑞宝単光章（警察功労）
昭和40年定＝奥野春男

▽瑞宝単光章（防衛功労）
昭和44年通＝大谷勝

▽瑞宝双光章（防衛功労）
昭和51年通＝金子順一

（平成29年秋）

▽旭日双光章（保健衛生功労）
昭和30年＝松浦義和

▽旭日小綬章（地方自治功労）
昭和38年定＝田尾健一

▽瑞宝小綬章（裁判所事務功労）
昭和40年＝重吉進

▽旭日双光章（労働行政功労）
昭和42年通＝宮地稔

〈特別表彰・感謝状〉

（特別表彰）

▽内閣総理大臣賞受賞（日本書道教育学会書道学会展）
旧教員＝林田香濤（利明）

▽被爆手記集「泉」編纂（広島一中生被爆の記録第1集～第3集）
昭和23年＝浜田平太郎（10月29日逝去）

▽平和推進活動（広島市被爆体験伝承者育成事業講師）
昭和24年鯉1＝児玉光雄

（感謝状）

▽功績（同窓会振興）
昭和24年⑤＝福間駿吉

▽功績（同窓会振興）
昭和33年＝八木忠士

▽功績（同窓会振興）
昭和33年＝奥田典子

▽功績（同窓会振興）
昭和44年＝吉田信秀

同窓会の常任委員会

こんな活動しています メンバーが「自己紹介」

同窓会活動を効率的に進めるため、鯉城同窓会には6つの常任委員会が設置されている。いずれの委員会活動もボランティアであり、地味で目立たない取組。それぞれの委員会メンバーに、普段の活動や、心構え、今後の抱負を語ってもらった。3～5ページにわたって紹介する。

総務委員会

母校支援や慰霊祭実施

平成29年度は鯉城同窓会より、母校の要望に基づきトロンボーン、女子バスケ部ユニフォーム等、約50万円を寄贈いたしました。

この原資は、平成27年度より導入した「鯉城同窓会サポーター制度」によるものです。

この制度は、鯉城同窓会の安定的な収入を確保し、母校在校生と同窓会への応援及び会報製作・送付の経費の一部負担として、全同窓生に毎年度ひと口千円以上の支援をお願いいたしております。

皆様にご協力いただきましたおかげで、母校生徒に支援することが可能になり、誠にありがとうございました。紙面をお借りしてお礼申しあげます。

今後の同窓会運営を考える時、一部の方に偏るのではなく、少額でも、幅広く全同窓生に応援のお願いをしたいので、この制度にいたしました。

出費の多いときに大変申し訳ありませんが、今後ともご協力をお願いいたします。

また、同窓会の活動の一部を報告いたします。

今年もしめやかに一中原爆死没者慰霊

（1）母校生徒への、OB講演会は、昭和30年卒の森重昭さんに「平和活動について」を講演していただきました。

森さんは、ヒロシマにおけるアメリカ人被爆者の実態調査および家族への情報提供により、オバマ大統領の広島訪問の実現に寄与しました。当日、オバマ大統領にハグされたニュースは、世界を駆け巡りました。

その地道な活動を評価され、菊池寛賞を受賞されるなど、母校の栄誉と社会に貢献されました。

（2）母校行事への出席等

（3）学校評価委員会、学校評議員会への委員として参加

（4）会長顕彰の実施（同窓会総会において）

（5）織田幹雄さんのモニュメント設置

（6）広島一中原爆死没者慰霊祭の実施　　以上

同窓会副会長
昌子　均（昭和48年卒）

運営委員会

当番幹事を支え 二木会参加訴え

運営委員会は当番幹事の指導と支援が主な活動です。ここでは、近年の様子をお知らせしたいと思います。

私が感じるのは、当番幹事の人達があまり盛り上がってなく、自分たちが楽しんでいないのではないかということです。通常は、当番幹事を担う数年前より同学年の組織作りを始め、本番に向けてみんなで頑張るというのが理想でしょうが、当番が回ってくる前年に何とか数人が集まり、それから同期に声を掛けて手伝ってもらうという状況が数年続いています。ある当番幹事によると「同級生に手伝いを頼むと、『ある先輩から、当番幹事に関わると大変だからやめた方がいいと言われたから無理だ』と言う人が多くいてなかなか人が集まらない」そうです。先輩が後輩の足を引っ張るような事をどうして言うのかと寂しい気持ちになりました。当番幹事はボランティアです。強制は出来ません。いたらない事もあると思いますが、当番幹事を引き受けた彼らは、数百人の同期の中でやると手を挙げてくれた数十人です。諸先輩の温かい支援をお願い致します。

二木会に積極的参加を

もう一つお知らせしたいのは、近年の二木会参加者が減少していることです。盛況だった頃と比べると、2～3割減少しているようです。具体的には、毎回100人を超えていた参加者が、80人程度の回が度々あるという状況です。85人を下回ると、赤字となる場合もでてきております。運営委員会も当番幹事と度々会合を開き、皆さんが興味を持てる講話をして頂ける講演者の選定や、役員が各々同級生に声を掛けたり等もやっております。それでもなかなか良い手立てが無いのが現状です。二木会の内容がマンネリ化している事も原因なのかもしれません。しかし、内容や進行を変更するには、当番幹事の負担もとても大きく、一度にすべて変更する事は困難だと思います。そこで今一度530回を超える伝統ある二木会を無くさない為に、一人でも多くの同窓生の参加をお願いします。

運営委員会委員長
越智孝広（昭和54年卒）

財務委員会

予算と決算　仕事の中心

財務委員会は、担当副会長2名、委員長1名、副委員長1名、委員2名の構成です。

仕事の内容は、「財務」との名前が示す通り、鯉城同窓会の予算及び決算に関する事が大半であり、「同窓会資産」を守り、適正な運用をするところです。

これまで同窓会は終身会費に頼る一方でしたが、一昨年から実施されました「鯉城同窓会サポーター制度寄附金」設置のお蔭を持ちまして、母校からの要望に応じた物品の寄贈や、同窓会運営がスムースに行えるようになりました。ちなみに一昨年度が480万円、昨年度が340万円と貴重な浄財を頂きました。心から感謝申し上げます。今後も毎年度一口一千円の「鯉城同窓会サポーター制度寄附金」をお願い致しますが、何卒よろしくお願いを申上げます。

次に、鯉城同窓会基金及び教育振興基金についても、今後、同窓会及び母校において、必要が生じた場合に拠出できるよう、しっかり管理していく所存です。

会議は、予算会議と決算会議の2回が通常ですが、特別に必要がある場合には臨時に開催を致します。

なお、監事は公認会計士並びに税理士の方にお願いをしています。

財務委員会と監事の役割は異なりますが、どちらも予算の立案及び支払の執行等に深く関わりを持っています。

財務委員長
櫻井嘉尚（昭和54年卒）

広報委員会

会報の歩み　重ねて70号

一瞬にして高校時代の思い出に包まれるー。こんな同窓会報をお届けしようと、懸命に知恵を絞って編集に臨んでいます。特にこだわっているのがフロントページ。皆さんをぐっと引き寄せるような話題作りに腐心しています。

今回はいかがですか。国立広島原爆死没者追悼平和祈念館が新年度の来館者向けに準備している企画展の話。被爆死した広島一中一年生の父母の手記を編んだ「星は見ている」がテーマになっています。毎年夏に原爆死没者の慰霊祭を続ける同窓会にとって、決して見逃すことはできないニュースです。

この話をキャッチできたのは、大石一朗広報委員長が同窓会館の展示品をカメラに収める平和祈念館のスタッフを偶然、見かけたのがきっかけでした。取材すると、母校と深くかかわった企画展だと分かりました。慰霊碑のある母校を思い浮かべながら、親しみをもって読んでいただけたのではないでしょうか。

会報70号の歩み

同窓会報「鯉城」は今回で第70号となりました。人間で言えば古希。還暦が赤ならば古希は紫です。癒す力を持った崇高な色とされています。母校のスクールカラーであり、同窓会報の題字の背景色でもあります。

さて、鯉城の創刊は昭和34年12月にさかのぼります。講堂兼体育館が完成するなど多大なる戦禍を被った母校の復興が進み、「戦後」から抜け出し始めたころです。モノクロでA3判4ページ。その後、B5判になり、発行が年2回だったり隔年だったり。昭和58年5月発行の第26号から題字の背景に紫色をあしらって2色刷りになり、平成26年12月発行の第67号から今のサイズになりました。最近は発行回数も年1回になっています。

定番の「私の近況」や「同期会だより」、同窓会総会の写真グラフで同窓会員の今をたっぷりと伝えています。また訃報欄も一昨年から設け、いろんな情報をお届けしようと努めています。その苦労は編集後記につづってありますので、ぜひご一読ください。今後も会員皆さんからの積極的な投稿、提案をお待ちしています。

広報委員会副委員長
小川伸夫（昭和50年卒）

会員委員会

HPの充実や「人物録」更新

会員委員会の活動として、従来の活動内容は①同窓会名簿の管理・編集・発行作業、②同窓会会報『鯉城』が宛所不明で返送された卒業生を一覧にし、定例幹事会にて学年幹事の皆様へ提示していく作業を主に行っていました。近年、同窓会員のデータベース化が進んだことによって、事務局による修正が容易に行えるようになり、徐々に会員委員会としての活動が変わり始めています。

今年度4月より鯉城同窓会ホームページのリニューアル作業を新たに任せていただくことになり、三輪委員長の声掛けから毎月1回、会員委員会を設けています。主な作業は現状のホームページを修正したり、情報を更新したりしています。月1回の会合以外にもLINEによる会議や夜の会合も併せて行うことで会員委員全体が参加できるよう心がけています。

委員会で力を入れているのが『鯉城人物録』です。『鯉城人物録』の問題点は、①昭和28年以降の卒業生が掲載されていないこと、②「現在作成中」という文言の

このQRコードから鯉城同窓会HPにアクセスできます。

みで情報が掲載されていない卒業生が多数いること、③その状態が長く放置されていることでした。以上の問題点を踏まえて、現在は『鯉城人物録』の編集作業を行うべく話し合いを進めています。

具体的には、現在『人物録』に掲載されている昭和27年卒以前の卒業生の中で「氏名」のみ掲載の方々（126名）が、どういった偉業を成し遂げられたのかを、ネットや書籍等で調査している最中です。情報の多少はありますが、できる限り正確なものを掲載すべく慎重に話し合いながら進めています。

将来の活動として、昭和28年以降の卒業生も『人物録』に追加していく為、新たな該当者の選定を行わなければなりません。私を含め若いメンバーで編集作業を行っているため新規で該当者を選定していくことは、かなり大変な作業であり、情報漏洩の観点から既存の人物よりも慎重に扱わなければいけないと考えております。今後は諸先輩方のご意見や知識を収集させていただき、充実した内容でお届けができるよう頑張っていきたいと考えています。

パソコンをお持ちの方は是非とも鯉城同窓会ホームページをご覧になり、不明な点等ありましたらご連絡ください。よろしくお願い致します。

鯉城同窓会公式ホームページアドレスは以下の通りです。

https://www.rijosite

会員委員会委員
佐々木千秋（平成2年卒）

資料保存委員会

同窓会の歴史を伝える展示に力

資料保存委員会は、平成25年の同窓会館の建設を機に、旧事業委員会のメンバーを中心に新設された、最も歴史の浅い委員会です。

本校の永きにわたる歴史を伝える史料を収集し、同窓会館での展示を中心に活動を行っています。おかげさまでメモリアルルームには、同窓生はもとより、在校生や現役教員の方々にも多く足を運んでいただき、ご好評をいただいています。

とはいえ、委員会が開設された当初は、定番の卒業アルバム以外には特に目を引くような展示物もなく、まさしくゼロからのスタートでしたが、その後、多くの同窓生から史料提供のお申し出があり、また委員会メンバーの個々のネットワークも駆使して、現在までに多くの史料が収集されてきています。

現在、田丸副会長、山口委員長以下8名の委員が概ね月1回、第一火曜日を中心に定例会を開催していますが、会議は早々に切り上げてグラス片手の反省会がメインとなる日も多々あったり、春にはお花見など、世代を超えて和気あいあいとやっています。

肝心の展示内容については、テーマを持たせた企画物に力を入れてきました。

これまでに行った企画は、「被爆70年」、「高校野球100年」、「サッカー部の歩み」、「織田幹雄さんの偉業」、「灘尾弘吉さんの足跡」と続き、各委員がそれぞれの得意分野を生かしてアグレッシブに活動してきました。

みなさまも同窓会館にお立ち寄りの際には、お気軽に見物していってくだされば と思います。

資料保存委員会副委員長
安井千明（昭和61年卒）

灘尾弘吉氏の写真や書作品

灘尾弘吉氏

同窓会館入口の自動扉を開けると天井まで届く大きな展示ケースが目に飛び込んできます。資料委員会では、昨年から資料室資料や関係者からの資料により卒業生の足跡を紹介する取り組みを行っており、昨年の織田幹雄さん（大正12年卒）に引き続き、現在は、元衆議院議長の灘尾弘吉さん（大正7年卒）を紹介しています。

正面の写真は、田丸同窓会副会長の知人から拝借したものですが、その高潔な政治姿勢から「政界の賢人」とも言われた灘尾さんの実直な様子がうかがえる写真です。また、灘尾さんは書の達人としても有名で、広島市内でも「相生橋」の橋名や比治山公園にある「天皇陛下御在位六十年奉祝記念碑」の碑文などの揮毫された作品を見ることができます。実は、「文化庁」の看板も灘尾さんの揮毫によるもので、その時の写真も今回展示しています。身近なところでは、国泰寺高校の正面玄関ロビー、大会議室、図書室にも扁額が飾られているのですが、皆さんご存知でしたか？

今回の展示では、若い（若すぎる？）頃の資料として尋常小学校6年生の時の作文を展示しました。その見事な文章力に資料委員会でも、「本当に小学校の時なの!?」と疑いの声（なんと失礼な！）が上がったほどです！

さて、来年は、作家鈴木三重吉さん（明治34年卒）を取り上げる予定です。鈴木三重吉さんは、中区猿楽町（現在の紙屋町）に生まれ、24歳の時に書いた作品「千鳥」が夏目漱石に絶賛され、新進作家として文壇にデビュー、その後上京して漱石門下となりました。大正7年、自ら児童雑誌「赤い鳥」を出版することを決意します。芥川龍之介、有島武郎の童話や北原白秋の童謡などを掲載し、坪田譲二や新見南吉を輩出するなど、「赤い鳥」の発行は、芸術的価値のある「童話・童謡」の創作運動を日本にも起こそうというもので、児童文学史上不朽の功績を残したと言われています。

資料保存委員会副委員長
藤井寿美枝（昭和48年卒）

東京・関西同窓会が新体制

幅広い参加を推進

東京新会長　中村怜次 氏

中村怜次 氏

会報70号の発行（刊）まことにおめでとうございます。

平素は鯉城東京の同窓会活動にも、暖かいご支援ご協力を賜り、あつく御礼を申し上げます。また11月8日に開催致しました、第84回二水会（東京では5月と11月の第二水曜日に年2回、5月は総会も開催）には金子副会長様、八木顧問（前会長）様他の皆様にも参加頂き、感謝致しております。

私はこの5月の総会で、長期間、鯉城東京同窓会の発展に大変な努力をされて来ました、山縣秀雄前会長（現顧問）の後を引継いだばかりで、至らない点も多いのですが、幸いな事に寺山久美子幹事長他、若手の幹事、学年幹事、当番幹事のサポートにより前回の二水会にも100名を超える参加者がありました。卓話者は昭和61年卒の松本数美氏で、アメリカでの駐在経験を中心に、興味深いプレゼンテーションが行われました。

現在、当同窓会の会員数は2000名になり、二水会には一中の先輩方から、平成27年卒の現役大学生迄、広い年代層の参加があります。

活動内容としまして、前述の二水会の内容を中心に年2回会報を発行しております。二水会に参加出来なかった方の、近況や動向を「一筆啓上」の欄にも記載しております。年2回のゴルフコンペも盛況です、そして関東近郊の、展望の素晴らしい山や渓谷へのハイキング、都内の名所旧跡への訪問等も開催しております。詳しくはHPもご覧ください。

今後の展開ですが、昭和60年代の後半から平成にかけての卒業生の参加も少しずつ増えて参りましたので、諸先輩方から若手の皆さんが、一堂に集える楽しい同窓会となれるよう、皆で知恵を絞って参ります。ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。尚、前述の二水会は、18時半から、若者たちの集う街！としても有名な、原宿、表参道にあります「水交会、東郷記念会館」で開催しております。ぜひお越し下さい！

時には山歩きを楽しむ
（ホームページから）

これからも鯉城同窓会、鯉城関西同窓会との相互連携を密にして、母校の発展に寄与出来るようにしていきたいと思います。鯉城同窓会の今後益々の躍進、そして会員の皆々様のご健勝を祈念しております。

鯉城東京同窓会会長
中村怜次（昭和40年卒）

安らげる場を追求

関西新会長　福原哲晃 氏

福原哲晃 氏

鯉城関西同窓会は、昨年3月に創立10周年記念総会を開催し、さらなる10年に向かってスタートを切りましたが、その第一歩を踏み出した今年、大津巧前会長の後任として、3月12日開催の総会にて会長に選任され、役員、会員の皆さんに支えられながら会長職に励んでおります。

会員数は、現在、S16年卒の先輩から平成22年卒までの252名です。創立以来、創立世代に中堅・若手世代が加わって、手作りで企画し運営しているのが鯉城関西の特色です。その中核となっているのが幹事・学年委員会のメンバーです。中でも女性会員の貢献度が高く、「鯉城女子」の力無くして当会の運営は成り立たない状況です。

なじみの店に集まりカープを応援
（ホームページから）

会員に郵送する案内文や総会プログラム、会報の封筒詰めなど、S30台卒の先輩も加わって総出で作業を行っています。この家族的作業と作業を終えた後の「一杯」が、鯉城関西のチームワークの源泉になっていると思います。

公式行事は、総会（3月）と講師を招いてのトーク&昼食会（8月）です。そして同好会行事として「カープを応援する会」「ワインで遊ぶ会」「連句の会」「京料理を楽しむ会」「広島のお好み焼きを食べる会」「史跡巡り」「ゴルフ愛好会」などがあり、いつも10名～30名が参加しています。今年は、カープリーグ優勝で大変盛り上がりました。詳しくは会報でご覧ください。

そして、今年度は、「Enjoy 鯉城」をテーマに、とにかく楽しく笑い安らぐファミリーな同窓会を目指してまいりますので、関西におられる卒業生に是非「鯉城関西」をご紹介ください。

鯉城関西同窓会会長
福原哲晃（昭和41卒）

奨学財団の実績着々

「人材育成へ制度を充実」

代表理事
八木忠士 氏

八木忠士 氏

平成26年、松尾　聡氏（昭和28年卒）の浄財3千万円（10年×300万円）を基金に、鯉城同窓会を中心に、公益法人広島国泰寺高等学校鯉城同窓会奨学財団を設立しました。

松尾氏の「母校から、世界に通じるグローバル人材を輩出したい」との熱い思いから設立しました。

全国的にも、埼玉県立浦和高等学校に次ぐ少ない制度であります。

当初は、海外留学を中心に考えておりましたが、学校・生徒からの要望もあり、国内の各大学への留学、又グループによる海外短期留学や研修へと、運用の幅を広げて参りました。

この制度は、国際的な活動に関心を持ち、将来的に、世界の各分野において、リーダーとして活躍できる人材となる事を期待し、給付型奨学金とし、支給対象者も、在校生は勿論ですが、卒業生も対象と致しました。

既に、第3回の募集を行っており、個人6名、6グループと支給しており、留学先、研修先には、アメリカ、オーストラリア、カナダ、シンガポール、台湾等と多くを数えております。

奨学財団の運営について話し合う評議員会

内容につきましては、当奨学財団ホームページを通じても、情報提供をしており、これから高校受験を控えた保護者にも、大きな関心を頂いております。

この制度の、目的も多くの皆さんのご理解を頂き、国際交流の機会を通じて、積極的に異文化に触れてくれています。選考に当たっては、年に1回募集をし、学校、個人の申請により、選考委員会、評議員会、理事会で協議し、選考を致しております。

今後の課題と致しましては、現在は、松尾氏の基金のみでの運用であり、資金的には自ずと、限界があります。

将来的に継続して行くには、今後、新たな資金確保が求められ、同窓生、保護者等関係者からの幅広く、浄財をお願いすることになると思います。

これからも、国際社会のあらゆる分野で活躍出来る生徒達を、一人でも多く育成出来るよう、制度の充実を図って参りたいと思いますので、今後とも、宜しくご支援をお願い致します。

平成28年度決算報告（平成28年４月１日～平成29年３月31日）

Ⅰ　一般会計の部

（単位：円）

収入の部		支出の部			
前年度繰越金	9,114,087	会報制作及び発送等経費	2,582,724	母校振興費	393,460
入会金	3,269,000	事業費	212,849	慰霊碑献花料	42,120
終身会費	509,650	HP管理・会員名簿管理費等	203,400	慶弔費	8,084
年会費		二木会助成（当番幹事）	900,000	事務費	1,420,000
寄附金	3,920,052	消耗品費	219,773	光熱・水道費	96,001
雑収入	240,945	什器備品費（消耗備品）	79,380	同窓会館清掃委託	125,146
		印刷費	92,804	修繕・保守点検料	0
		通信運搬費	324,861	手数料	3,822
		会議費	291,401	雑支出	179,343
		顕彰費	161,352	次年度繰越金	9,717,214
収入計	17,053,734			支出計	17,053,734

Ⅱ　基金

1　鯉城同窓会基金　（単位：円）

前年度繰越金	11,079,757
次年度繰越金	11,079,757

2　教育振興基金　（単位：円）

前年度繰越金	16,500,000
次年度繰越金	16,500,000

新たな挑戦

29年度鯉城同窓会総会

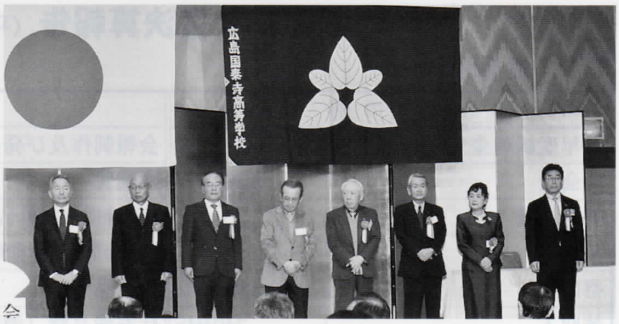
会場の参加者も注目

当番幹事代表の小川太一さん

42年卒の〝美女軍団〟

平成29年度鯉城同窓会総会・懇親会に多くの同窓生の皆様にご出席いただき、会を盛大に開催出来ましたことを当番幹事の代表として皆様に厚く御礼申し上げます。多くの同窓生の皆様からのご支援と激励の言葉を頂くことで、私たちの代もこの伝統ある鯉城同窓会を途切れさすことなく当番幹事としての役割を全うできたのではないかと思っております。

私たち平成6年卒当番幹事はスローガンを「継続からの挑戦」として取り組んでまいりました。この鯉城同窓会を今後も多くの同窓生が楽しく集える場所にするためにも新しいことにチャレンジし、より良い交流の場となるようにという思いを込めて活動してまいりました。とはいえ最初に協力してくれた同



総会で顕彰されたみなさん

と「KBS」

仲よしカルテット。今も美しい

久しぶりじゃのー。元気か…

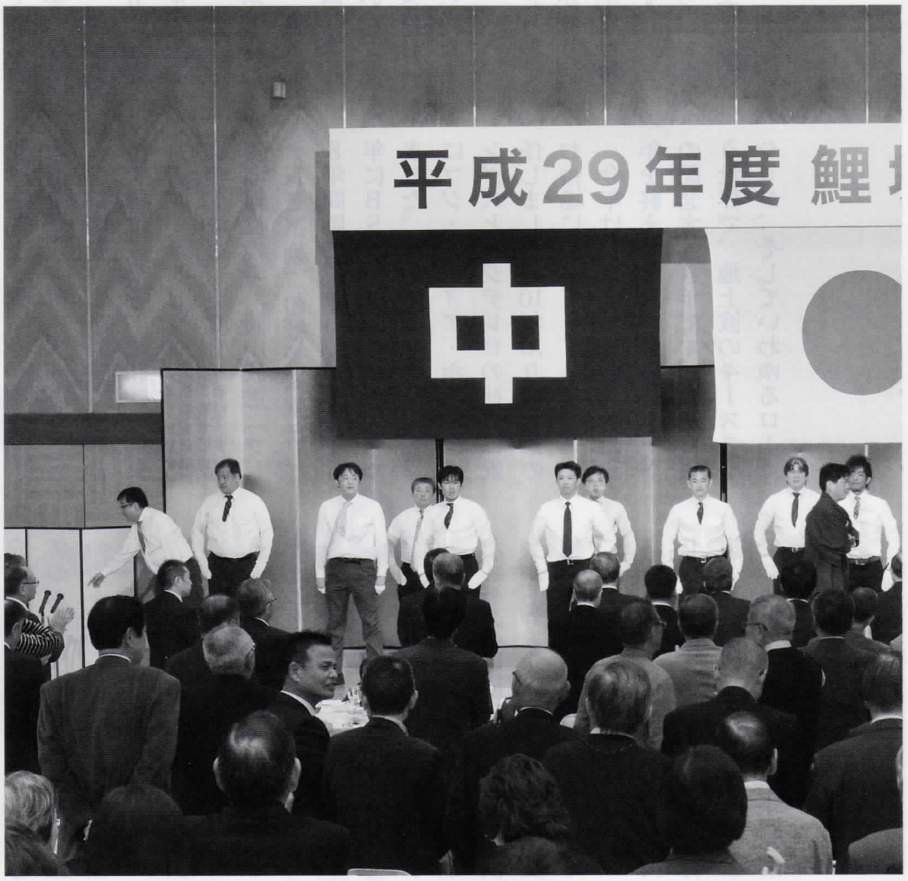
139年の伝統

細川会長初めての総会あいさつ

カンパイの音頭は昭和42年卒の皆さん

うれしいネー。今夜は飲もう

閉会の挨拶は当番幹事の宮内さん



フィナーレは応援団のエール交換

う大仕事を私たちの代も乗り切ることができるのか不安でいっぱいでした。ですが私たちの思いに多くの同級生が応えてくれたことで、この日を無事迎えられ、そして協力してくれたからこそ、やり遂げられたと思います。同級生のみんなに感謝の気持ちでいっぱいです。多くの同窓生のかたからも「楽しかったよ」、「よかったよ」というお言葉を頂くことでようやく私たちもやってきて良かったと実感することができました。

当番幹事としての活動は残り数か月となりましたが、新しいことに積極的にチャレンジして鯉城同窓会がこれからも多くの同窓生が楽しく集える場になるよう平成6年卒業生一同、精一杯頑張ってまいりますので、今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

平成6年卒　代表幹事
小川　太一

「ヨッ元気か」。39年卒トリオ

同窓生全員に「エール」

総会に花を添

私の近況

昭和33年卒　吉田善紀

昭和33年3月1日卒業、国泰寺高校最後のグラウンドでの卒業式でした。左前面に建設中の体育館を見ながら、寒風の中、震えながら1時間あまりでした（2日後の国立入試を気にしながら）。60年前のことです。

昭和31年、古くなった運動部室を建て替えるよう運動部3年生有志の方で学校へ要望されましたが、予算がなく断られました。そこで生徒の手で建てようと3年計画を立て、生徒全員の積み立てがはじまり、私が3年生後半に新部室が完成しました。

やっとの完成で立案された2級上の先輩に感謝し、落成記念クラスマッチを計画しましたが、校長の一喝にあい、クラスマッチをあきらめ、さみしい落成式だったのを思い出します。

一時、低迷しているとうわさのあった母校も、今はかなり活気があり、生徒も先生方も頑張っておられる様子です。

広島国泰寺高等学校ガンバレ！

（広島市佐伯区楽々園）

昭和37年卒　宮内正喜

1962年（昭和37年）卒業の宮内正喜です。昭和19年1月生まれの73歳です。平成24年11月16日にグランドプリンスホテル広島で開催された「国泰寺高校37同期会・鯉城同窓会」に出席しました。僭越ながら懇親会で乾杯の音頭をとりました。

卒業50年の時間が経過していても、同級生の一人一人の顔を見ていると、教室やグラウンドの情景がよみがえってきました。

私は国泰寺を卒業後、慶應義塾大学に入学し、昭和42年に東京のフジテレビジョンに入社し40年間務め、2007年6月専務取締役の時、岡山放送（フジテレビ系列）の社長に就任し、8年間岡山で暮らし、2015年にBSフジ社長を2年間務めました。そして2017年6月にフジ・メディア・ホールディングスとフジテレビの社長に就任しました。10年ぶりに古巣のお台場に戻ってきました。

今年は、私の放送人人生の50年を終えて新しい年のスタートの記念すべき年です。放送という世界で、地上波のキーステーション、そしていわゆるローカル局、またBS衛星放送のそれぞれのトップを経験出来たことは、大変貴重で日本人の放送人として大変光栄に思っています。

社屋のあるお台場エリアは2020年に開催される「東京オリンピック・パラリンピック」の関連施設や競技会場の予定地となっており、またお台場特区事業の実現の話題もあり、盛り上がっています。この社屋が完成して20年が経過しますが、球体のあるビルで「東京鯉城会」の方々をお招きして、喜んで頂いたことを記憶しております。

フジテレビでは、テレビ新広島のキーステーションとしてこれからも頑張っていきます。どうかご支援をお願い致します。

（東京都港区）

昭和39年卒　石田和子

卒業してから53年が経ちました。その間三度広島を訪ねる機会がありましたが、すっかり変貌した広島は、私の知らない町になっていました。

当地に住んで48年。家族と同じ方言を使う私は、今では北海道の人。それでも会報「鯉城」で知った後輩の上向さんのお店で、お好み焼きと広島弁を楽しむこともあります。

高校では泳げるようになれなかった私ですが、今では週に数回プールに通う楽しみを持ち、ほどほどに健康に過ごしています。

これからの季節、道産子の家族は雪を見るとホッすると言いますが、なかなか…。ツルツル路面は苦手で、緊張の日々です。

広島で育ったことを知る同世代の人から、原爆のことを尋ねられることがあります。あまり話すことはできないのですが、どうか後の世代の人たちが、私たちのように「平和な世の中で暮らせるように」というのが今の私の願いです。（北海道江別市）

昭和53年卒　野村隆之

昨年8月12日、メルパルク広島にて4年に一度の同期会が開催されました。県内外から107名も参加していただき盛会でした。会の中で快進撃のカープの優勝を期待する声が相次ぎました。

思えば、我々が国泰寺に入学した昭和50年がカープ初優勝の年であり、熱狂の優勝パレードを一目見たくて授業を抜けて見に行ってしまいました。今年のカープは見事に連覇したものの、CSで敗退しました。

しかし、私は今年とても嬉しかったことがあります。私の卒業生である藪田和樹君がカープの投手の柱として大活躍したことです。彼は中学を卒業してからも、進路への思いを何度も私に手紙を書き、私もその都度返信を書きました。今年の彼の活躍は教師冥利に尽きます。

次回の同期会は、東京オリンピックの2020年、我々は還暦で迎えることになります。そのときをカープの黄金時代として、さらに同期全員が元気に迎えたいと思います。

（広島市安佐北区落合南）

昭和57年卒　松尾たい子

私は現在、東京でイラストレーターをしています。生まれたのは呉市、それから数年間は父の仕事の関係で東京にいましたが、32歳まではほとんど広島で過ごしました。

広島国泰寺高校時代は、どちらかというと地味な生徒だったと思います。ただ、その頃から

絵を描くのは得意だったので、卒業アルバム委員になったのが唯一目立った場所だったかもしれません。高校生の私には、大きな夢はありませんでした。絵を描くのは好きだったけれど、東京の美大を目指すほどの実力はないと、最初から努力もしませんでした。なんとなく周りに流されるまま地元の短大に進学、そして自動車会社に就職。

やりたい仕事というよりは、できることを探しながら働いていました。

そんな私が32歳で「やはり絵の勉強をしたい」と東京に出て来たのは、初めて自分で決断したことでした。その時には、遅すぎると思っていましたが、いま思い出すと、全然若かったなあと思います。逆に人よりスタートが遅かったからこそ、本気を出せました。

今年（２０１７年11月現在）、広島では私が関わった展覧会がふたつ開催されました。ひとつはオリエンタルホテル広島のギャラリーでの５年ぶりの個展。もうひとつは広島県立美術館の「ブータン展」。こちらはアートディレクターを務め、会場の空間やオリジナルグッズに私の絵がたくさん散りばめられました。

いま、高校生の頃の「自分にはなにもない」と思っていた私に会えたなら、「そんなことないよ」って声をかけてあげたいです。子供の頃に漠然と「イラストレーターになりたい」と思っていた夢がこうやって実現したのは、とても嬉しいですが「なにかをスタートするには遅すぎるってことはないんだなあ」とつくづく感じます。きっと、あの頃の私のように「将来やりたいことがみつからない」「自分に自信がない」という在校生もたくさんいると思いますが、あせることはないからって伝えたいです。（東京都渋谷区）

昭和63年卒　中井直道

私は今、二つの仕事をしています。一つは本業のピアノ調律師です。この仕事はピアノ調律・調整および修理を行う仕事で、会社員として12年、独立して14年目になります。主な作業は調律で、約２２０本の弦を音階にしていきます。その他場合に応じて鍵盤を弾いた感じの調整や、故障の修理をします。

お客様は年１回ほぼ同じお宅で、作業も時間にあまり左右されず１人で行うので、人見知りでチームプレイの苦手なマイペースの私には合っている仕事だと思っています。ただ独立してから仕事がかなり不規則です。１件あたり１時間半前後、日時もお客様次第で、収入も月によって違うのでたまに曜日さえ分からなくなります。

そこで登場するのがもう一つの仕事です。某ハンバーガーショップのアルバイトなのですが、本業とは逆で不特定、作業

下平文治先生と再会
自宅で無料の「補習」
半世紀前の支援に感謝

再会を喜ぶ下平先生（左）と末広さん

昭和43年卒　末広克久

高校時代の恩師が先日、ご子息を伴って私の店（喫茶店「ルーエぶらじる」）に来てくださった。その恩師は、現在85歳の下平文治先生。前触れなしの訪問に驚きながら、忘れられない思い出がよみがえった。

先生は英語を教えておられたが、私の担任ではなかった。英語が苦手な私の成績は低迷していた。ある日、先生が「補習をしてあげるから、希望するなら放課後、教科書を持ってうちに来ないか」と声をかけてくださった。えこひいきとは無論違う。もがいている生徒に、そっと手を差し出された印象だった。

週に１、２回、ご自宅に通うようになった。私だけでなく、似たような立場の生徒が４、５人いた。月謝を払うわけではない。いつも奥様がお茶やお菓子を出してくださった。先生は「反復練習が大事なんで」と何度も繰り返された。先生も本当は家でゆっくりしたかったはずだ。ご自宅には１年以上通ったのではないか。他の学年の生徒にも、同じような接し方をされたと聞く。

先生は国泰寺高校の通信制教員から全日制に移られ、そこでわれわれとの出会いがあった。今から思えば、通信制での経験を通じ、自分なりに頑張っている生徒を、常に応援し続けてくださったのではないだろうか。国泰寺高校には通信制４年、全日制14年の合計18年間も在籍された。

先日、先生とご一緒された一人息子さんは、当時小学校の低学年で、われわれが勉強している時、部屋の中をよくちょろちょろされていた。その息子さんは今や広島商工会議所の要職にあり、先生宅の近くにお住まいだという。先生ご自身は、10年前に奥様を亡くされ、自らも大腸がんを患われたが、元気で一人暮らしを続けておられる。

現在、私は68歳。今回の久しぶりの再会で、あらためて歳月の流れを痛感した。「受け持ちの生徒じゃないのにな」「今はあんな先生はおらんのじゃないか」。下平先生が来てくださったことを、かつての級友に話すと、そんなやり取りになった。

（広島市中区大手町）

もチームプレイでスピード重視です。本業が不規則に仕事が入るのでアルバイトは夜しています。

最近ふと思うことは、この仕事を規則的に働くことによって曜日がわかり、定額の収入も確保でき、人間らしい生活ができているような気がしています。

（広島市南区宇品西）

平成15年卒　樋谷良平

この度は、このような機会を与えていただきありがとうございます。

現在、私は理学療法士として広島県内の病院で働いております。在学中はサッカー部に入部していたこともあり、現在は、国泰寺高校サッカー部出身のメンバーが多い、フットサルチームでフットサルをしています。広島県フットサルリーグ2部に所属しており、来年は1部昇格を目標に皆でがんばっています。

平均年齢が約31才と、おじさんが多いチームですが、メンバーの中には元日本代表になった選手もおり、日々精進しています。在学中に学んだ「HF魂」を胸に、今後もがんばっていこうと思っています。

（広島市南区翠）

同期会だより

一中卒業69年 今も意気盛ん

昭23年卒

今年の「昭和23年卒同期会」は10月3日（火）午後2時からANAクラウンプラザで開催致しました。

戦後72年、広島第一中学校卒業後69年と云う年月が経過致しました

毎年度開催する同期会ですが、「今年は顔を見なかったな～」「どうしたんじゃろか。」など、元気度を確かめ合う場でもあります。

一人二人とかけていく寂しさは言うまでもありませんが、「これからをどう生き切るのか?」が自身に課せられたことのように思えます。

私は結構な高齢ですが、若者に負けないよう「iPAD」を活用しています。これは便利なものです。同期生や一中の諸先輩方について調べてみると、「耳寄りな話」が出ており、これについて同期会あいさつで、話しを致しました。

同期の重松君の「赤ヘル旋風～カープ初優勝の軌跡～」や、下瀬雅允氏の「下瀬火薬と日露戦争」の話など、昔の広島には素晴らしい技術や心意気があった事などが良くわかる情報がありました。

また、面白い所では「乃木さんのしりとり歌」（乃木希典大将）の凱旋歌がしりとりになっていてエンドレスの歌であった事等、多くの情報が満載されており、私は冒頭のあいさつで、これらの話しを致しました。

このような古き昔の話を知っている方々が少なくなりつつありますが、時代は移り変わっても、歴史的なものや、他にないもの等は、残して行かなければならないのではないかと思っています。

このような話しをしながら、楽しく和気藹々とした同期会を終え、「また来年の二三会で、元気で、お会いましょう。」とお別れしました。

（世良邦治）

熱き心を持ち 紫旗の会元気

昭33年卒

私達は昭和21年国民学校に入学「カタカナ」から教えられた最後の戦中派です。

原爆のため、外地から命からがら帰国のため等により入学が遅れたり、再入学したりした年上の同級生もおります。若い後輩の皆様には想像もできない中で育った世代です。

とは言え楽天家も多く、待望の国泰寺入学で高校生活を謳歌した世代と自負しています。

同期会は一中時代からのスクールカラーの紫に因み「紫旗の会」としました。

会は東京・関西（含む中部）広島の三支部で活動しています。

会長は1年交代とし、既に20数名の会長経験者輩出し、70代になっても新しい参加者が増え続く要因となっています。

東京支部は関東のメンバーの集いを定期的に開催、広島を離れて60年余り、カープを応援しています。

関西支部は、淡路島の同期生が「大阪の集いには遠くて参加できない」との事で淡路島に一泊旅行を実施、以来20数年、同期会での旅行を続け、強い絆のチームを作っています。

広島は観梅・花見・暑気払い・菊見と、何やかんや理屈をつけて、宴を開いています。

昼間の開催で女性陣の参加も激増、華やかな集いが続いています。

全体行事の他に、毎月ゴルフコンペと「参酔会」と銘打った飲み会を、これまた規則正しく開催しています。

「紫旗の会」は、12月の総会で当年の活動報告と、翌年の活動計画を立てています。

80才を目前に、ともすれば同期会の参加も少なくなりますが「みんなが主役」をモットーに、高校時代の熱き心を持ち続けたいと思っています。

後輩諸兄姉各位のご指導を切望し「紫旗の会」の活動報告とさせて頂きます。

（野田　昭）

恩師の卒寿と同期喜寿祝う

昭34年卒

同期会は、5年ごとに開催してきましたが、今年は、喜寿にあたり、さらに松尾先生がめでたく卒寿（卒寿）をお迎えになるとのことで、前倒し（本来は2年後）して、「松尾博之先生卒寿を祝う会・十期会喜寿記念」として6月26日（月）午後1時からメルパルク広島8階ブルートパーズで開催しました。

卒業以来58名の方がお亡くなりになっていますが、236名

がめでたく喜寿を迎えることができました。当日の出席者は57名でした。松尾先生からは、「皆さんも卒寿を目指してがんばれ」と激励されました。先生には、卒寿のお祝いに花束と記念品をお贈りしました。

野球部OB会前会長の滝村修平君による乾杯の発声で祝宴が始まりました。卒業以来初めて参加する方もおられ、懐かしい方々と交流する光景が見られました。

クラスごとの記念撮影と、参加者紹介を行いました。1組では、元生徒会長の津村甫君が元気に初参加。2組では、さいたま市から横繁隆夫君が毎回参加。3組では、鎌倉市から網崎万喜男君が参加。浦安市から小笠原順子さんが初参加。4組は、松尾先生担任のクラスで今回も14人と最多人数。さいたま市から林 和子さんが参加。5組では、鎌倉市から参加の貞末良雄君の藍綬褒章受章が紹介されました。船橋市から剱持 叡君が元気に参加。6組では、北広島町の住職、伊藤唯見君が卒業以来初参加。釧路市から藤岡完昌さんが参加。7組は、女性だけのクラスですが、これまで最多の10名が参加され華やかでした。3年生のときクラス対抗リレーで6組と組んで優勝したエピソードも紹介されました。

最後に出席者全員集合の記念撮影を行い、次回の再会を願って鯉城東京同窓会の横繁隆夫君が中締めをして散会となりました。

再会を希望する意見は特に遠方から参加の方から多く出され、当初予定の卒業60年（2年後の2019年、昭和で言えば94年）か、傘寿（3年後）に実施してほしいとの希望がありました。

最後に今回の同期会で出た余剰金17,000円を同窓会サポーター基金へ寄付をしました。

（中田　正博）

9回目の旅行は「唐津くんち」へ　昭35年卒

九回目を迎えた昭和35年卒（十一会）の同期会旅行、今回は佐賀県への旅となった。11月3日、広島を貸切バスで出発、博多駅で関東・関西組と合流し総勢33名、一路、九州の秘湯・いろは島温泉へ。海辺にある宿から素晴らしい夕焼けを眺めながらの一風呂は格別だった。懇親会は近況報告に始まりフラダンスにカラオケと夜が更けるのも忘れ盛り上がる。

4日も天候に恵まれ、まず名護屋城址へ。豊臣秀吉が最盛期の歴史ロマンをたっぷり堪能し最後の訪問地唐津へ。日本でも有数の秋祭りで昨年世界遺産に指定された「唐津くんち」。一閑張で作られたかぶとや舟型など14台の山車が3日間、街を練り歩く勇壮な祭りだ。期間中、30～40万人の人出があるという。おいしい物を食べ飲み、旧交を温めた楽しい旅も2年後の再会を約してフィナーレとなった。

（伊藤　暉）

東シナ海・玄海灘を望む高台にある名護屋城址。約400年前の「夏草や兵どもが夢の跡」だ。苔むす石垣が残るのみで城郭は何一つ残っていない。それが却って歴史の重みを感じさせる。

銀河で広島湾をランチクルーズ　昭36年卒

10月1日の日曜日は、昭和36年卒業の31名が「銀河ランチクルーズ」を楽しみました。

昭和36年卒業の集まりの会は「広島みろく会」として、なかなか活発で定期的な同期会や1度の「みろく」のほかに気軽なお酒の入った食事会やゴルフコンペの会が随時時開かれます。しかしこれらの会はいつも同じ顔ぶれになりがちなので、今回は女性も参加しやすい会を催そうと「銀河ランチクルーズ」を企画してみました。参加者募集は「広島みろく会」のメンバーの協力があり、女性17名、男性14名の参加がありました。

当日広島港宇品旅客ターミナルには、高校時代と違って、1人の遅刻者もなく集まりました。銀河をバックに集合写真を撮り乗船12時出発。当日はうす曇りでしたが、風もなく波も穏やかな広島港をゆっくりと、まず似島に向かい、江田島をめぐって宮島に向かいました。ここまでは皆、船窓から見える海景色を目で楽しんでいましたが、フレンチ料理のオードブルがテーブルに並び始めると、食べることとおしゃべりで口が活躍。その間も銀河は進み、宮島の大鳥居に近づいてほぼ停船。みなデッキに出て厳島神社を眺めたり、

写真撮影したりして、のんびり見学タイムを過ごすことができました。コーヒーとデザートが出るころ、銀河は宮島を離れて宇品港に船首を向けます。そのころから、みな今までの席を離れて思い思いのテーブルやデッキに移りました。

楽しい時はアッという間に過ぎるもの。船内アナウンスで宇品港帰港を気づかされました。

たった、2時間30分でしたがおなかも満足、のんびり楽しい短い船旅でした。（中村晃二）

卒業し50年古希を祝う　昭42年卒

広島国泰寺高校を昭和42年3月に卒業した私達は、卒業後50年という節目の年を迎えました。一般的に言いますと所謂「古希」です。

今年度の「鯉城同窓会総会・懇親会」では節目の乾杯学年として同期の仲間とともにステージに上がりました。

壇上で脳裏をよぎったのは、当番幹事を担った約30年前の総会・懇親会でした。当時は、何をどうしたら良いか戸惑いが多く、スムーズに進められるようになったのは殆ど終わりが近づいた頃の事でした。

この度、乾杯学年という事で、幹事会を10月に開催し、その趣旨を理解してもらいながら、参加を呼び掛けたところ、70名近くの仲間が集まってくれました。

反面、見知った顔に出会えなくて、「あいつ、どうしているかな?」と、不安も覚えた総会・懇親会でした。

「同期生は少なくなっていくけど、増えることはない!」と、集まるたびに話しをしてきましたが、70歳という大きな節目を越えたら、これから先は、もっと加速度的に少なくなっていくでしょう。

今現在、私達の同期は、分かる範囲ですが、既に50名を超えてご逝去されています。残念であり、寂しい限りです。

平均寿命が、女性・男性とも大きく伸展する中、「少しでも元気で、楽しい時を過ごすこと」に目を向けていきたいと思います。

そのためにも「仲間の輪を大切に、楽しい時をより多く持つこと」が大切であると思います。これから先は、「元気で楽しく!」を合言葉に、集まれる者が集い、元気を確認する同期会になれば…と思っています。（清水敏行）

還暦迎え同期会講演会も大盛況　昭51年卒

2年に1度開催される昭和51年卒同期会。今年の幹事は3年6組でした。8月13日、還暦の年にあたり新たな人生の旅立ちへのエールにしたいという思いを込めて、母校の同窓会館で同期による講演会を開催しました。

演者はマネジメントケアリストとして著名な浅井浩一さんと、同じくパーカッショニスト兼プロデューサーであり、熱帯ジャズ楽団を率いて活躍中のカルロス菅野さんのお二人です。これまでの歩みや思い、信念について語るそれぞれの熱い言葉の数々に、73人が熱心に耳を傾けました。

その後、メルパルク広島に移動していよいよ同期会本番。出席者は114人にのぼり、盛況のうちに会を終えることができました。われわれ幹事の級友たちは、カープのリーグ優勝を祝い、真っ赤なユニフォーム姿で会場を飛び回りました。幹事の居場所を分かりやすくする、という利点もあったのではないでしょうか。

私は、幹事クラスのメンバーとは言え、神奈川県在住でほとんど準備作業を手伝うことはできませんでした。その代わり広島在住の幹事女子が、担任の原田先生の名前をお借りしたグループライン「原田組」を開設してくれ、同期会に向けて連絡を取り合ったり、高校時代の思い出話に花を咲かせたりしました。

同期会幹事の大役を終え、あらためて同窓会事務局や二木会の関係者、参加者の皆さんの協力に、幹事一同たいへん感謝しております。本当にありがとうございました。（安部淳子）

同期100人近く22年ぶり再会　平7年卒

平成29年9月9日にホテルグランヴィア広島にて、平成7年卒業生の同窓会を開催しました。

100名近くの同級生が集まり、お世話になった恩師と共に22年ぶりの再会を喜び合い、大変楽しい時間となりました。

そもそも、この度の同窓会を開催する後押しとなったのは、鯉城同窓会の存在があったからこそだと思います。

私自身は、10年程前から友人と鯉城同窓会総会や二木会に参加をしていましたが、その中で、もっと盛り上げたいという思いで同級生に声掛けをするも、中々、思う通りにはなりませんでした。

しかし、いよいよ来年、自分達が当番幹事になることで、少しずつ自覚が芽生え出し、同級生の結束が必要だと強く感じ始めました。

当初、4人で居酒屋に集まって始めた話が、22年ぶりの同窓会の開催の実現につながったことは、私達の大きな自信になりました。

この輪を来年度に向けて一層広げていき、当番幹事としての役割を果たしていきたいと思います。

伝統ある鯉城同窓会の諸先輩方には、今後もご指導頂くことが多いかと思いますが、どうぞ宜しくお願い致します。（窪田泰久）

お悔やみ申し上げます

（平成28年1月1日～平成29年10月31日の間の死没者で過去掲載されていない方々）　（敬称略）

西本省三（旧職員）　沖崎　治（昭21年）
前中早人（旧職員）　山田喜久次（昭21年）
吉本　弘（昭9年）　井上　薫（昭22年）
河内卓司（昭14年）　友清　坦（昭22年）
三上　智（昭14年）　福岡伸夫（昭22年）
井上律男（昭16年）　福馬直昭（昭22年）
津江卓爾（昭16年）　堀川　巖（昭22年）
福島一雄（昭16年）　大田一男（昭23年）
望月儔（昭16年）　勝田　忠（昭23年）
友安大三郎（昭17年）　桑原三郎（昭23年）
伊藤　敏（昭17年）　新庄靖男（昭23年）
岩本幸二（昭17年）　浜田平太郎（昭23年）
武田正弘（昭17年）　谷本英雄（昭23年）
小田　進（昭19年）　松村正夫（昭23年）
竹本重治（昭19年）　宮川秋三（昭23年）
戸谷哲雄（昭19年）　有田晧一（昭24年⑤）
豊玉敏雄（昭19年）　植木　豊（昭24年⑤）
八嶋　浩（昭19年）　岸田　喬（昭24年⑤）
森重一教（昭20年）　木村如矢（昭24年⑤）
相川禎一（昭20年）　中本　守（昭24年⑤）
坂田　薫（昭20年）　長谷川賢吾（昭24年⑤）
橋本　昭（昭20年）　服部憲二（昭24年⑤）
中田隆康（昭20年）　平位　剛（昭24年⑤）

天野啓一郎（昭24年鯉1）　渡部鉀藏（昭31年）
金江雅彦（昭24年鯉1）　熊野啓子（昭31年）
三光慶治（昭24年鯉1）　田中志賀子（昭31年）
志波国介（昭24年鯉1）　廣谷節子（昭31年）
園山高康（昭24年鯉1）　平野勝彦（昭31年）
寺本洋三（昭24年併）　小笠原勝司（昭32年）
仁井　叡（昭24年鯉定）　浜本弘毅（昭32年）
大下利一（昭24年鯉定）　平木興統（昭32年）
瀬越悦子（昭26年）　益成　稔（昭32年）
渡部武子（昭26年）　山本晋作（昭32年）
内海　茂（昭26年定）　山下嘉雄（昭32年定）
堀田　晃（昭26年定）　陰野政三（昭33年）
田中　勉（昭27年定）　伊藤浩史（昭34年）
藤本重美（昭27年定）　上野恒晴（昭34年）
佐久間夫美子（昭28年）　小都賢弘（昭34年）
石居迪子（昭28年）　佐々木善章（昭35年定）
國米規正（昭28年）　石井　昇（昭36年）
桂原　豊（昭28年定）　温泉良康（昭36年）
平田正人（昭28年定）　金森孝子（昭36年）
中内郁子（昭28年定）　河村潤一（昭36年）
浦田公子（昭29年）　川本康夫（昭36年）
信原孝史（昭29年）　立本英機（昭36年）
吉武泰彦（昭29年）　下口輝明（昭36年定）
藤谷健三（昭30年）　小島敏嗣（昭37年）
上垣内禎子（昭30年）　堤　日出雄（昭37年定）
梶原明子（昭30年）　長松生典（昭37年定）
岩本清子（昭30年）　横町幸雄（昭37年定）
成田大光（昭30年定）　北田初郎（昭38年）

熊谷哲雄（昭38年定）
香本顕利（昭39年）
滝瀬憲之（昭39年）
杉田享二（昭39年定）
江川伸彦（昭40年）
井上清子（昭41年）
小林祐治（昭42年）
佐藤博美（昭42年）
三木晴美（昭42年）
天野　茂（昭43年）
南　正子（昭43年）
藤岡　弘（昭45年）
神浦元彰（昭45年定）
竹田孝三（昭46年定）
中田義春（昭46年定）
山崎多由美（昭46年定）
中常　勲（昭47年通）
小野崎大介（昭48年）
向橋あゆめ（昭48年）
木戸八寿子（昭49年）
佐々木正之（昭54年）
折本　博（昭58年）
菅原ミヨコ（H1年通）
浅沼真紀子（H8年）
高橋伸季（H13年）
迫井裕梨（H28年）

「百均」ダイソーの素顔

矢野博丈社長（昭37年和卒）の足跡をまとめ本に

矢野さんについて書かれた本の表紙

「一〇〇円ショップ」ダイソー社長の矢野博丈さん（74）＝昭和37年卒＝の歩みをたどった「百円の男　ダイソー矢野博丈」（さくら舎、一六〇〇円）がこのほど出版された。著者は広島県安芸郡府中町出身の作家大下英治さん。あまりメディアに登場しない矢野さんの素顔や経営哲学、交友関係などが、エピソードを交えて生き生きと描かれている。

矢野さんは昭和18年、8人きょうだいの五男として、中国・北京で生まれた。父親は勤務医だった。戦後、父親の郷里である現在の東広島市に引き揚げ、中学校からは広島市に移った。国泰寺高校に進学してからはボクシングに熱中。東京オリンピックの強化選手に選ばれるほど腕を上げた。当時、数人の不良から呼び出しを受けたが、逆に返り討ちにした武勇伝を持つ。

このころの矢野さんの名前は栗原五郎。今の名前の矢野は後に結婚した奥さんの姓。その際、下の名前の五郎も博丈に変えた。

大学卒業後、さまざまな仕事やアルバイトを転々とした矢野さんは昭和47年にダイソーの前身である矢野商店を立ち上げ、2トントラックに商品を積み込み、百円均一で売り歩くようになった。そのころ「安物買いの銭失い」と言われることがあり、それが最も胸に突き刺さった。そこから品質を上げることに集中した。客の反応は目に見えて変わっていった。

イトーヨーカ堂、セブンイレブン、イオンなどそれぞれのトップとの交流、海外進出の裏話なども紹介されている。そんな中、いくつかの危機を突破しながら、ダイソーは今や国内に約3150店舗、海外には約1800店舗を展開するまでに成長した。

この本の中で矢野さんは語っている。「これを百円で売っているのか、と、お客様が驚いてくれるような商品を売ることができたから、いまがあるわけです。いつも我ながら、これがよく百円で売れるなあ、と驚いています」。

そして「縮む世紀」とも呼ばれる二十一世紀を迎え、矢野さんは人にどう貢献できるのか、ということをよく考える。生き残るには企業として善、徳を積むしかない。そのためには社会貢献しなければならない。そんな考えに立って「これからの企業の生きる道は、それしかない」と結論づけている。

編集後記

同窓会報の編集時期が近づくと、いつも「無事に発行できるんだろうか」と心配になる。「今年のトップ記事は何にしようか」「依頼原稿は誰に頼もうか」「原稿が集まるんだろうか」「この記事には、写真が必要だな」。それらと並行して、見出しや紙面のレイアウトにも工夫を凝らさなければならない。

今号は、平和祈念館で来年開かれる企画展の記事を一面に据え、二面では当時、一中生徒だった児玉光雄さんの「決意」を紹介させてもらった。「ちょっと硬くて取っつきにくい紙面になったかな」「そうは言っても、いま書き残しておかねば…」「若手の話題をもっと盛り込みたかったな」。自問自答や反省はいつまでも続く。

編集作業中、今回はよく「鯉城の夕」を口ずさんだ。この歌は同窓会会員ならだれもが知っている。一中の卒業生なら校歌として、新制になってからは応援歌・愛唱歌として歌い継がれてきた。その歌が口をついて出たのは、一中一年生の最期の合唱シーンが、私の心に刻み込まれたせいだろう。

会報「鯉城」は、今号で70号を迎えた。バックナンバーをめくってみれば、内容の変遷に時代の流れを感じる。変わらないのは、その時々の会員の動向を記録し、時には先輩方の体験や記憶を記事にする編集スタイル。これからも会員同士を結ぶ役割を少しでも果たせれば、と願っている。（大石）

鯉城関西同窓会総会
3月11日（日）
開催　11：00
大阪新阪急ホテル

中
平成30年度
総会
日時　11月17日（土）17：00
場所　リーガロイヤルホテル広島
当番幹事　平成7年卒業生

鯉城東京同窓会総会
5月9日（水）
開催　18：30
（財）水交会 東郷記念館